

口腔外科学(1)(口腔内科)C 講義

1 単位 4 年 (後期)

Oral and Maxillofacial Surgery(Oral Medicine)

東雅之・教授 / 歯学科 口腔外科学第一講座 (口腔内科学), 松本文博・講師 / 歯学科 口腔外科学第一講座 (口腔内科学)

桃田幸弘・講師 / 歯学科 口腔外科学第一講座 (口腔内科学), 茂木勝美・助教 / 歯学科 口腔外科学第一講座 (口腔内科学), 青田桂子・助教 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

【授業目的】 超高齢化社会を迎え、様々な全身疾患や複雑な社会的背景を持つ患者が急速に増加している。本授業はこの様な現状に対応するための教育を担当する。すなわち、歯科医師が日常診療を行うために必要な基本的態度・技能・知識を養成することを目的とする。また、口腔に現れる様々な病変および疾患を全身との関連において診る能力と習慣を養うことも目的とする。

【授業概要】 患者との接し方、情報収集の仕方、局所症状の診方、全身状態の捉え方および臨床検査などの診断の進め方について基本的知識・技術・態度を理解する。また、自然治癒力の促進と薬物療法の基本を理解するとともに、口腔病変と全身状態の関連性についても理解する。

【授業形式】 講義

【授業方法】 プリント、スライド、ビデオなど適宜使用する。

【授業場所】 第 4 講義室

【授業テーマ】 医療面接のありかた、診断の進め方、診療録のまとめ方。顎・顔面領域に生じる疾患に対する口腔内科的治療。

【キーワード】 [キーワード]

【先行科目】 [先行科目]

【関連科目】 [関連科目]

【履修上の注意】 口腔外科学(1)(口腔内科)C 講義の授業では 15 回の授業で毎回講義事項の「キーワード」を提示する。①受講者は各回のキーワードについて事前に予習して理解した内容を簡潔に纏めること。②受講者は毎回受講後に学習成果を基にキーワードについて再度内容を簡潔に纏めること。又予習時の内容と復習時の内容を比較して、学習の成果を確認すること。③試験は全講義数の 2/3 以上の出席を満たしている者に対して行う。④予習、復習をすることが出席評価に含まれる。

【到達目標】

(<> 内はコアカリ対応)

1. 唾液の性状と役割を説明できる。 F-2-2)④
2. 口腔粘膜疾患の種類と特徴を説明できる。 F-2-4)-(2)①
3. 主な粘膜疾患を概説できる。 F-2-4)-(2)⑨
4. 前癌病変(白板症, 紅板症)の特徴, 性状および治療法を概説できる。 F-2-4)-(3)⑨
5. 前癌状態の種類と特徴を列挙できる。 F-2-4)-(2)⑩
6. 唾石症の特徴, 症状および治療法を説明できる。 F-2-4)-(5)①

7. 流行性耳下腺炎の原因ウイルス, 症状および治療を説明できる。 F-2-4)-(5)③
8. シェーグレン症候群の特徴, 症状および治療法を説明できる。 F-2-4)-(5)④
9. 小唾液腺疾患を概説できる。 F-2-4)-(5)⑤
10. 三叉神経痛の特徴, 症状および治療法を説明できる。 F-2-4)-(6)①
11. 顔面神経麻痺の特徴, 症状および治療法を説明できる。 F-2-4)-(6)②
12. 口腔・顎顔面領域に症状を現す血液疾患と検査法を列挙できる。 F-2-4)-(7)①
13. 口腔・顎顔面領域に症状を現す薬物の副作用を列挙できる。 F-2-4)-(7)⑦
14. 口腔・顎顔面領域に症状を現すビタミン欠乏症と症状を列挙できる。 F-2-4)-(7)⑨
15. 心身相関を説明できる。 F-4-5)①
16. 心身症を説明できる。 F-4-5)②
17. 口腔・頭蓋・顎顔面領域の心因性の痛みを説明できる。 F-4-5)③
18. 心理テストを説明できる。 F-4-5)④
19. 舌痛症を概説できる。 F-4-5)⑤

【授業計画】

	大項目	内容	到達目標	担当
1.	口腔粘膜疾患	前癌病変	2, 3, 4, 5	東
2.	同上	口内炎, アфта	2, 3, 14	桃田
3.	”	ウイルス性疾患	2, 3	”
4.	”	薬剤性病変, 色素異常	2, 3, 13	”
5.	唾液腺疾患	発生, 発育異常	1	東
6.	同上	炎症性疾患	7	”
7.	”	その他の疾患	6, 8, 9	”
8.	血液疾患	赤血球異常	12 14	松本
9.	同上	白血球異常	12	”

10.	”	出血性素因	”	”
11.	神経疾患	神経痛, 神経麻痺	10 11	茂木
12~13.	心因性病態	歯科心身症	15 16 17 18 19	桃田
14.	特別講義			
15.	講義総括	国家試験対策		東

【成績評価】評価は筆記試験により行い、6割以上の得点を有する者を合格とする。

【再試験】実施する。

【教科書】

- ◇ 1) 宮崎 正編:口腔外科学, 医歯薬出版, 第2版, 2000年
- ◇ 2) 尾崎登喜雄編:口腔内科学, 飛鳥出版, 2008年

【参考書】[参考資料]

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217274>

【連絡先】

- ⇒ 東 (088-633-7351, azumasa@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月~ 金 16:15~ 17:15/医学臨床B棟4F 口腔内科・医局1)
- ⇒ 松本 (088-633-7352, fumihito@dentclin.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月~ 金 16:15~ 17:15/医学臨床B棟4F 口腔内科・医局1)
- ⇒ 桃田 (088-633-7352, momota@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月~ 金 16:15~ 17:15/医学臨床B棟4F 口腔内科・医局1)
- ⇒ 茂木 (088-633-7354, kmotegi@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月~ 金 16:15~ 17:15/医学臨床B棟4F 口腔内科・医局1)
- ⇒ 青田 (088-633-7352,) (オフィスアワー: 月~ 金 16:15~ 17:15/医学臨床B棟4F 口腔内科・医局1)

Oral and Maxillofacial Surgery(Oral Medicine)

1 unit 4th-year(2nd semester)

Masayuki Azuma · PROFESSOR / ORAL AND MAXILLOFACIAL SURGERY, COURSE IN DENTISTRY, Fumihiko Matsumoto · ASSOCIATE PROFESSOR / ORAL AND MAXILLOFACIAL SURGERY, COURSE IN DENTISTRY

Yukihiro Momota · ASSOCIATE PROFESSOR / ORAL AND MAXILLOFACIAL SURGERY, COURSE IN DENTISTRY, Katsumi Motegi · ASSISTANT PROFESSOR / ORAL AND MAXILLOFACIAL SURGERY, COURSE IN DENTISTRY

Keiko Aota · ASSISTANT PROFESSOR / INSTITUTE OF HEALTH BIOSCIENCES

Target) 超高齢化社会を迎え、様々な全身疾患や複雑な社会的背景を持つ患者が急速に増加している。本授業はこの様な現状に対応するための教育を担当する。すなわち、歯科医師が日常診療を行うために必要な基本的態度・技能・知識を養成することを目的とする。また、口腔に現れる様々な病変および疾患を全身との関連において診る能力と習慣を養うことも目的とする。

Outline) 患者との接し方、情報収集の仕方、局所症状の診方、全身状態の捉え方および臨床検査などの診断の進め方について基本的知識・技術・態度を理解する。また、自然治癒力の促進と薬物療法の基本を理解するとともに、口腔病変と全身状態の関連性についても理解する。

Style) Lecture

Manner) プリント、スライド、ビデオなど適宜使用する。

Location) 第4講義室

Theme) 医療面接のありかた、診断の進め方、診療録のまとめ方。顎・顔面領域に生じる疾患に対する口腔内科的治療。

Keyword) [キーワード]

Fundamental Lecture) [先行科目]

Relational Lecture) [関連科目]

Notice) 口腔外科学(1)(口腔内科)C講義の授業では15回の授業で毎回講義事項の「キーワード」を提示する。①受講者は各回のキーワードについて事前に予習して理解した内容を簡潔に纏めること。②受講者は毎回受講後に学習成果を基にキーワードについて再度内容を簡潔に纏めること。又予習時の内容と復習時の内容を比較して、学習の成果を確認すること。③試験は全講義数の2/3以上の出席を満たしている者に対して行う。④予習、復習をすることが出席評価に含まれる。

Goal) (<>内はコアカリ対応)

1. 唾液の性状と役割を説明できる。 F-2-2)④
2. 口腔粘膜疾患の種類と特徴を説明できる。 F-2-4)-(2)①
3. 主な粘膜疾患を概説できる。 F-2-4)-(2)⑨

4. 前癌病変(白板症、紅板症)の特徴、性状および治療法を概説できる。 F-2-4)-(3)⑨
5. 前癌状態の種類と特徴を列挙できる。 F-2-4)-(2)⑩
6. 唾石症の特徴、症状および治療法を説明できる。 F-2-4)-(5)①
7. 流行性耳下腺炎の原因ウイルス、症状および治療法を説明できる。 F-2-4)-(5)③
8. シェーグレン症候群の特徴、症状および治療法を説明できる。 F-2-4)-(5)④
9. 小唾液腺疾患を概説できる。 F-2-4)-(5)⑤
10. 三叉神経痛の特徴、症状および治療法を説明できる。 F-2-4)-(6)①
11. 顔面神経麻痺の特徴、症状および治療法を説明できる。 F-2-4)-(6)②
12. 口腔・顎顔面領域に症状を現す血液疾患と検査法を列挙できる。 F-2-4)-(7)①
13. 口腔・顎顔面領域に症状を現す薬物の副作用を列挙できる。 F-2-4)-(7)⑦
14. 口腔・顎顔面領域に症状を現すビタミン欠乏症と症状を列挙できる。 F-2-4)-(7)⑨
15. 心身相関を説明できる。 F-4-5)①
16. 心身症を説明できる。 F-4-5)②
17. 口腔・頭蓋・顎顔面領域の心因性の痛みを説明できる。 F-4-5)③
18. 心理テストを説明できる。 F-4-5)④

19. 舌痛症を概説できる。

F-4-5)⑤

⇒ Motegi (+81-88-633-7354, kmotegi@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (Office Hour: 月～金 16:15～17:15/医学臨床B棟4F 口腔内科・医局1)

⇒ Aota (+81-88-633-7352,) (Office Hour: 月～金 16:15～17:15/医学臨床B棟4F 口腔内科・医局1)

Schedule)

	大項目	内容	到達目標	担当
1.	口腔粘膜疾患	前癌病変	2, 3, 4, 5	東
2.	同上	口内炎, アфта	2, 3, 14	桃田
3.	〃	ウイルス性疾患	2, 3	〃
4.	〃	薬剤性病変, 色素異常	2, 3, 13	〃
5.	唾液腺疾患	発生, 発育異常	1	東
6.	同上	炎症性疾患	7	〃
7.	〃	その他の疾患	6, 8, 9	〃
8.	血液疾患	赤血球異常	12 14	松本
9.	同上	白血球異常	12	〃
10.	〃	出血性素因	〃	〃
11.	神経疾患	神経痛, 神経麻痺	10 11	茂木
12~13.	心因性病態	歯科心身症	15 16 17 18 19	桃田
14.	特別講義			
15.	講義総括	国家試験対策		東

Evaluation Criteria) 評価は筆記試験により行い、6割以上の得点を有する者を合格とする。

Re-evaluation) 実施する。

Textbook)

- ◇ 1) 宮崎 正編:口腔外科学, 医歯薬出版, 第2版, 2000年
- ◇ 2) 尾崎登喜雄編:口腔内科学, 飛鳥出版, 2008年

Reference) [参考資料]

Contents) <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217274>

Contact)

- ⇒ Azuma (+81-88-633-7351, azumasa@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (Office Hour: 月～金 16:15～17:15/医学臨床B棟4F 口腔内科・医局1)
- ⇒ Matsumoto (+81-88-633-7352, fumihiro@dentclin.tokushima-u.ac.jp) MAIL (Office Hour: 月～金 16:15～17:15/医学臨床B棟4F 口腔内科・医局1)
- ⇒ Momota (+81-88-633-7352, momota@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (Office Hour: 月～金 16:15～17:15/医学臨床B棟4F 口腔内科・医局1)